

証券コード：7472

“百年の信頼を未来につなげる”

2025年3月期 第3四半期 決算説明補足資料

2025年2月5日(水)
株式会社鳥羽洋行

I. 2025年3月期3Q決算について

II. 今後の戦略及び見通し

I .2025年3月期 3 Q決算について

<連結損益計算書の概要>

(単位:百万円)

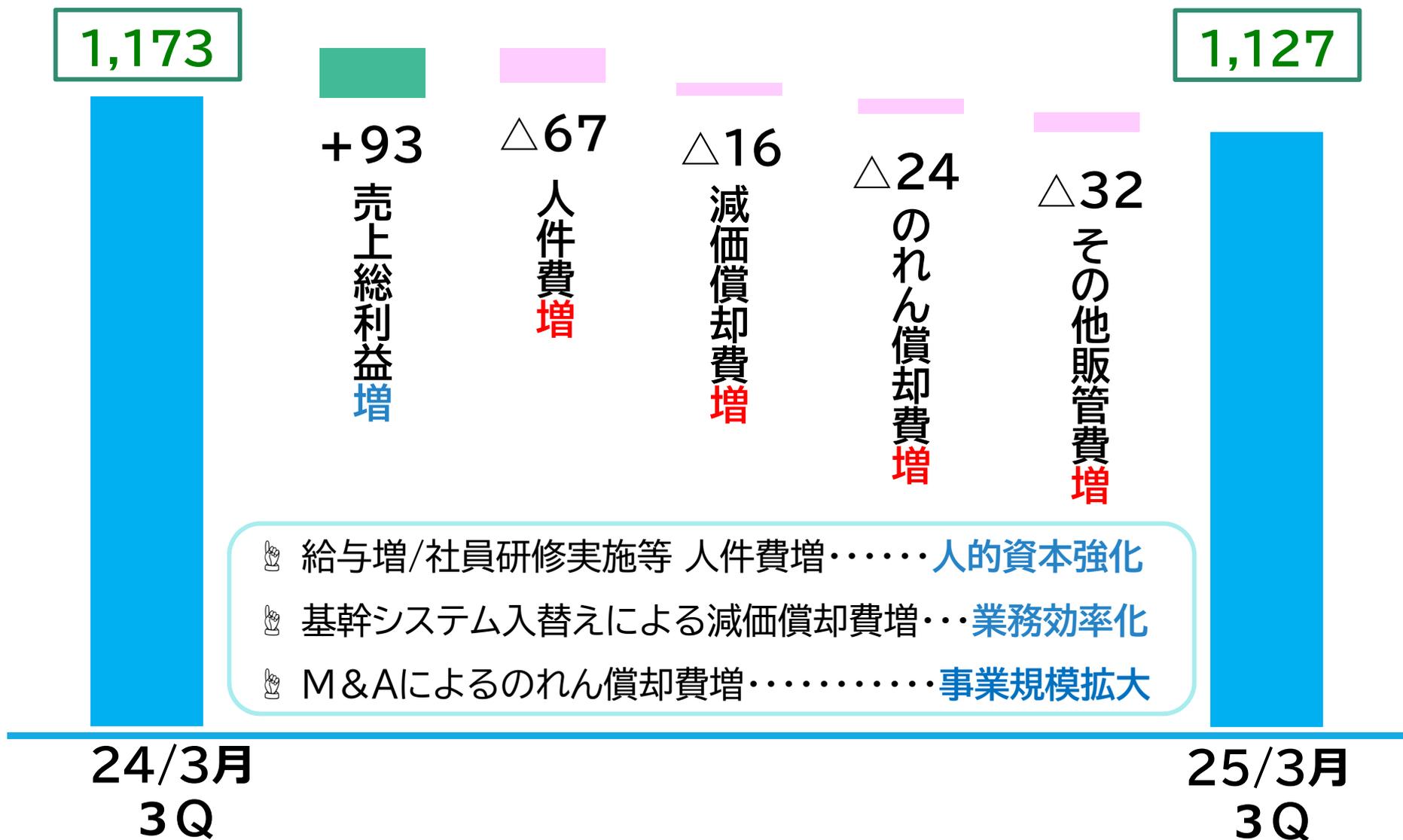
	24/3月期 3Q	25/3月期 3Q	前期比 (増減率)	備 考
売 上 高	21,355	22,444	5.1%	国内は前年同期比で微増 海外は中国子会社が大きく増加
営 業 利 益	1,173	1,127	△3.9%	販売管理費は、前年同期比で6.9%増
営 業 利 益 率	5.5%	5.0%	△0.5P	
経 常 利 益	1,249	1,223	△2.0%	
経 常 利 益 率	5.8%	5.5%	△0.3P	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	855	828	△3.2%	
四半期純利益率	4.0%	3.7%	△0.3P	

Point!

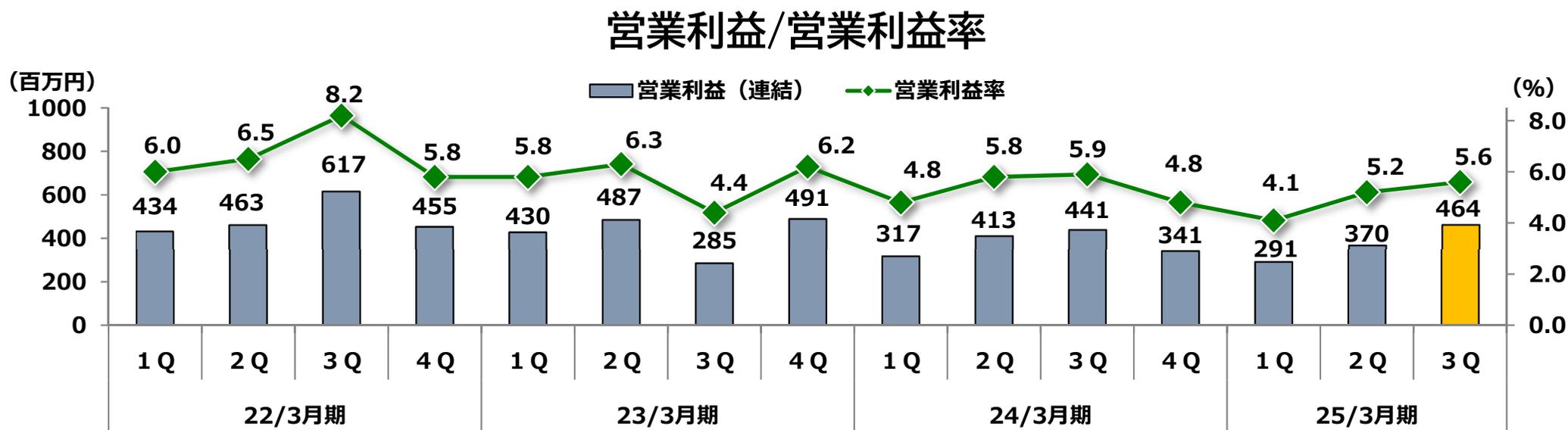
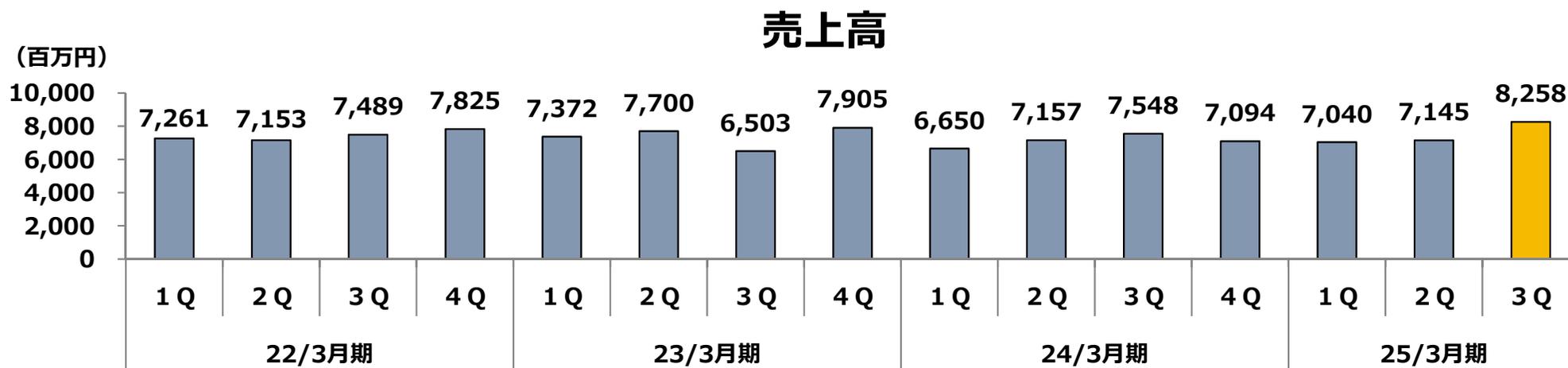
- 売上高は自動車関連の需要増により、前年同期比増(+5.1%)。
- 売上総利益は前年同期比増(+2.9%)。
- 販売管理費は前年同期比増(+6.9%)により、利益減。

<連結営業利益増減分析>

(単位:百万円)



<四半期毎の連結売上高・連結営業利益の推移>



Point!

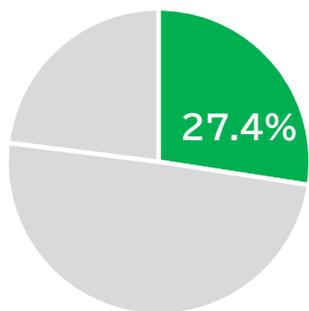
- ・ 3Qに入り、売上・利益ともに増加。
- ・ 国内売上は、自動車関連の得意先への販売が好調に推移し、微増。中国では、スマホ関連設備投資の需要増で、連結子会社(鳥羽上海貿易有限公司)の売上が増加。

<商品部門別実績>

制御機器

連結売上高

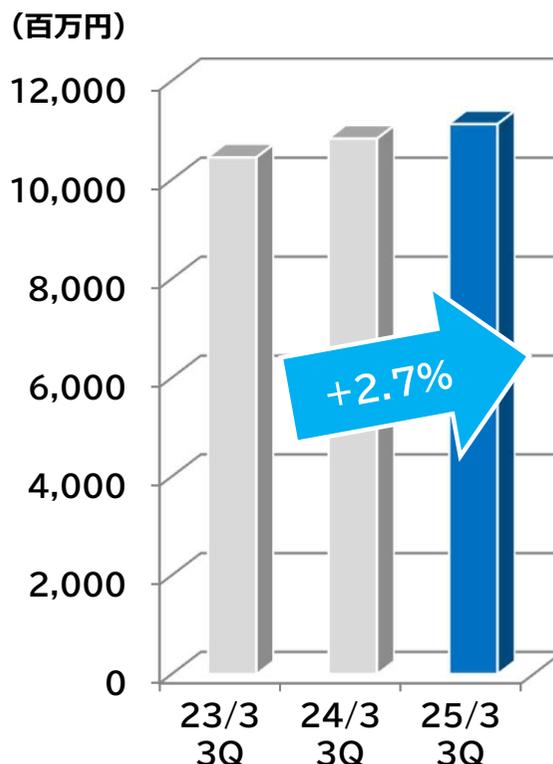
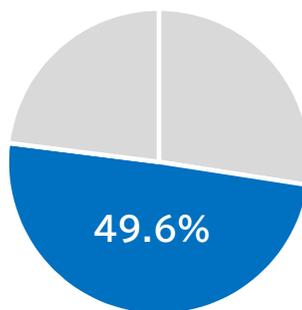
61億53百万円



FA機器

連結売上高

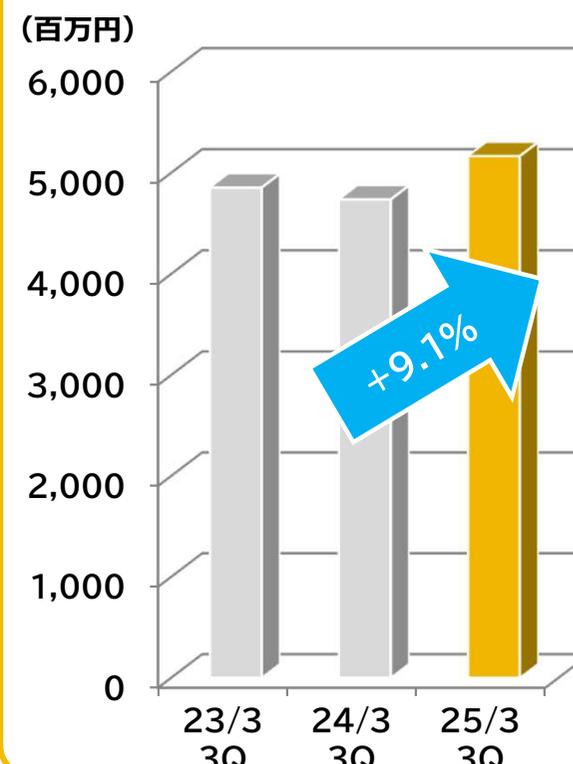
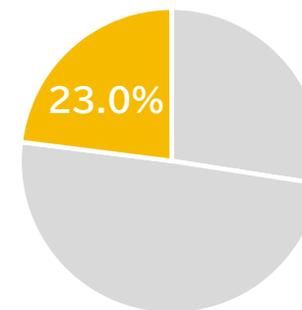
111億25百万円



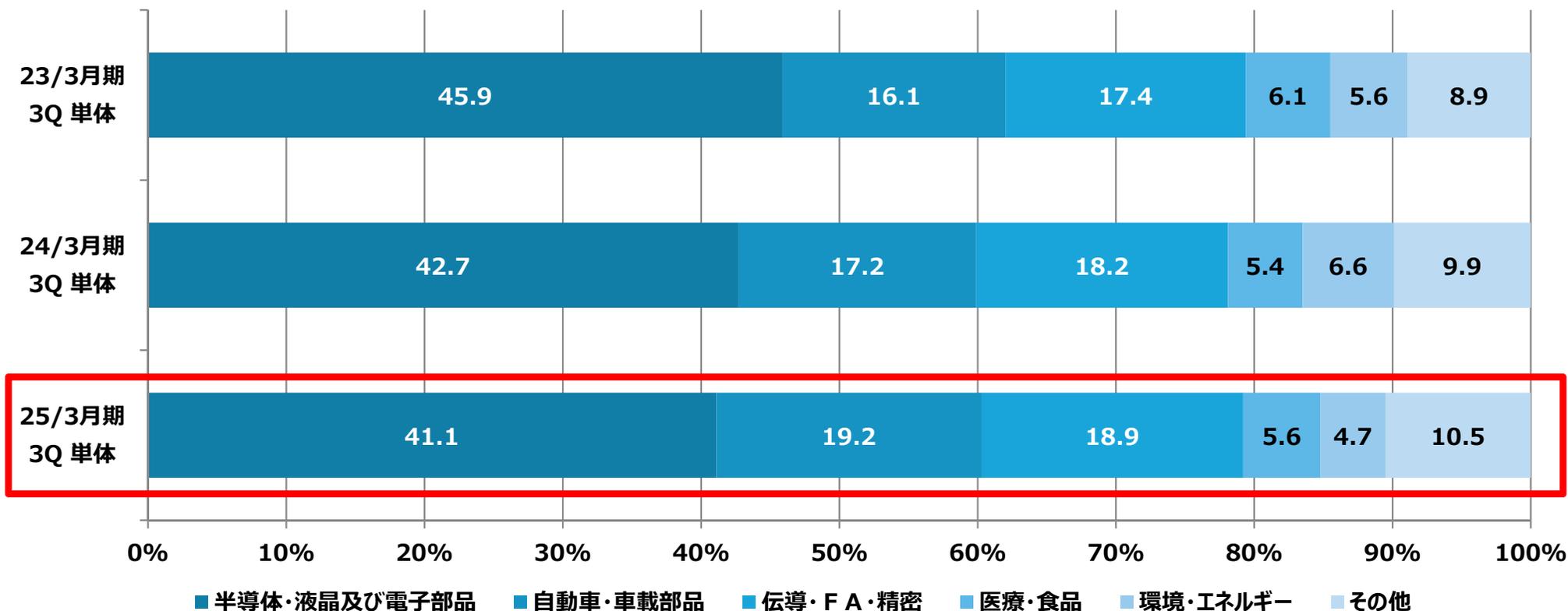
産業機器

連結売上高

51億65百万円



<業種別売上構成比(単体)推移>



Point!

<半導体・液晶及び電子部品>

生成AIに関連する半導体の設備投資は好調に推移しているが、前年割れの状況。

<自動車・車載部品>

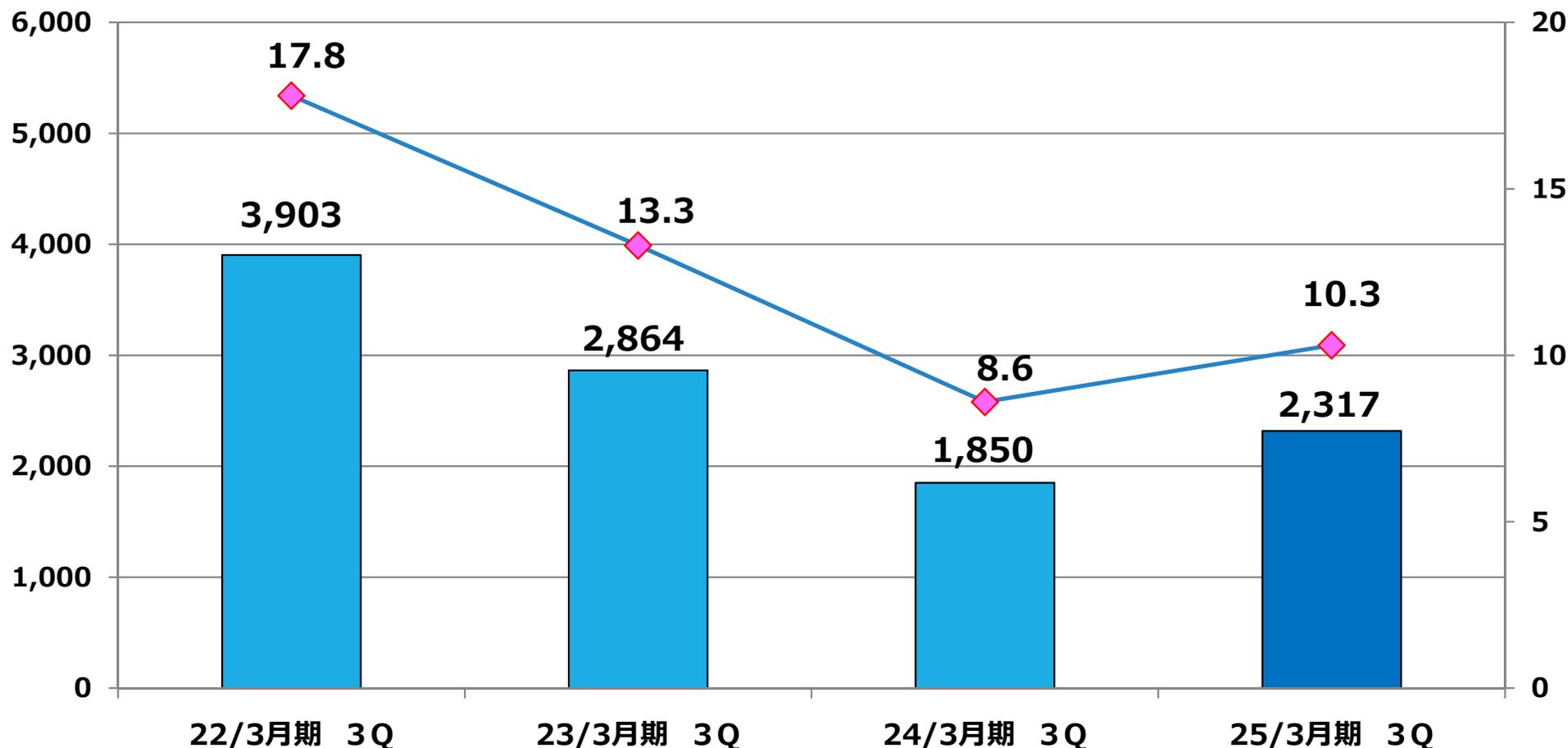
HVやADAS(先進運転支援システム)の普及により、関連得意先への販売は好調。

<海外売上高・海外売上比率>

(単位:百万円)

■ 海外売上高 ◆ 海外売上比率

(単位:%)



Point!

中国経済の成長率は鈍化傾向であるが、スマートフォン等の各種デバイス向け電子部品関連の得意先に向けた産業用ロボットの販売が好調に推移。

<連結貸借対照表の概要>

(単位:百万円)

	24/3月末	構成比 (%)	24/12月末	構成比 (%)	備 考
流動資産	24,596	76.6	24,036	76.0	
現金・預金	12,648	39.4	11,901	37.6	
受取手形・売掛金 ・電子記録債権	11,387	35.4	11,419	36.1	
商品	351	1.1	651	2.1	
固定資産	7,527	23.4	7,599	24.0	
資産合計	32,124	100.0	31,635	100.0	
流動負債	11,053	34.4	10,562	33.4	
支払手形・買掛金 ・電子記録債務	9,868	30.7	10,157	32.1	
固定負債	580	1.8	529	1.7	
負債合計	11,633	36.2	11,091	35.1	
純資産合計	20,491	63.8	20,543	64.9	
負債純資産合計	32,124	100.0	31,635	100.0	

Point!

構成比に大きな変化はございません。

Ⅱ. 今後の戦略及び見通し

第4次中期経営計画

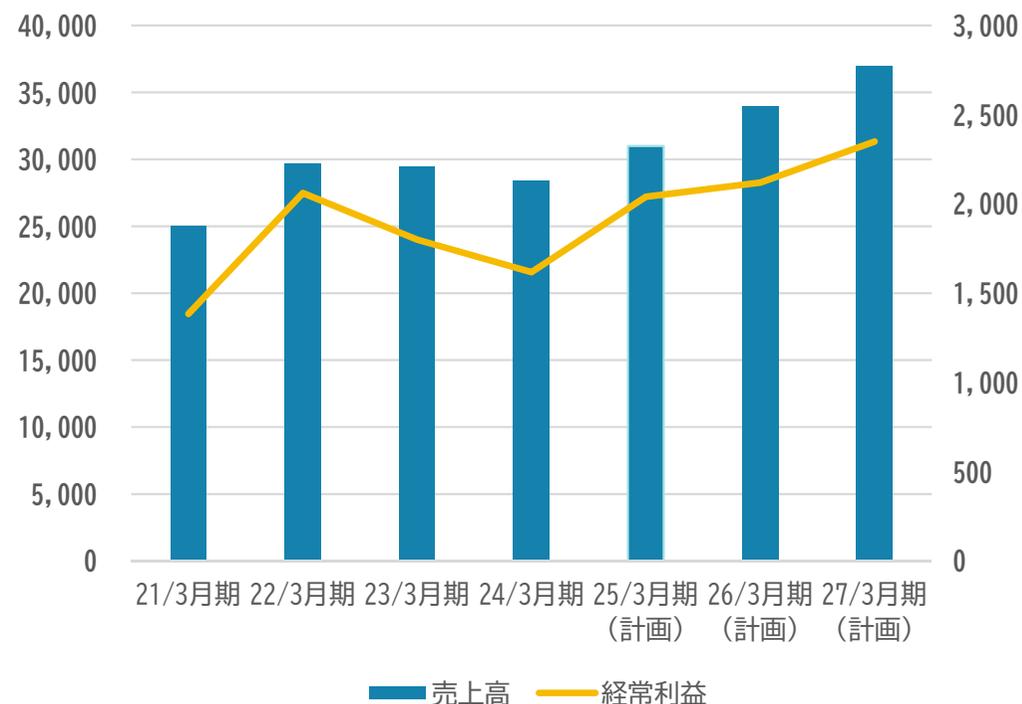
➤ Next Stage 2027

(単位：百万円)

	第76期	第77期	第78期
	2025年 3月期	2026年 3月期	2027年 3月期
売上高	31,000	34,000	37,000
営業利益	1,950	2,020	2,250
経常利益	2,040	2,120	2,350
当期純利益	1,380	1,460	1,620

連結売上高と経常利益の推移

(単位：百万円)



※当社グループは、経営環境の変化等に対応すべく「ローリング方式」により、中期経営計画を毎年度策定することとしております。

<2025年3月期の連結業績予想>

(単位:百万円)

	第75期 (2024年3月期) 実績	第76期 (2025年3月期) 予想	前期比 (増減率)
売上高	28,449	31,000	9.0%
営業利益	1,514	1,950	28.7%
営業利益率	5.3%	6.3%	1.0P
経常利益	1,618	2,040	26.1%
経常利益率	5.7%	6.6%	0.9P
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,074	1,380	28.4%
当期純利益率	3.8%	4.5%	0.7P

事業戦略① 5つの柱

1

次世代の柱となるユーザー新規開拓、育成

- ・積極的な展示会出展と来場者フォローによる新規顧客開拓
- ・M&Aによるシナジーを活かした売上/利益の拡大

2

新商材発掘(SDGs/環境や人にやさしい商品)

- ・環境負荷や労働負荷を低減できる新たな商材の発掘

3

装置ビジネスの更なる販売強化

- ・労働力不足を補う自動化機器とロボットの販売強化

4

技術商社としての存在価値強化 (ブランド強化)

- ・各種専門資格等の取得による提案型営業の推進
- ・人的資本経営推進 社員研修等による人材の育成

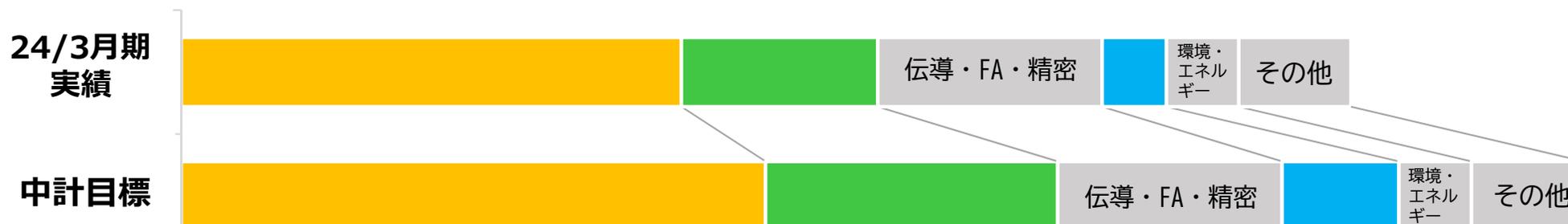
5

海外拠点との連携強化

- ・新規海外拠点の検討

事業戦略② 新市場開拓

成長チャンスをいち早く察知し、新たな需要を取り込み業種別のシェアを拡大



半導体・液晶及び電子部品

生成AI/5G/メタバース等の情報通信技術普及による中長期的な半導体関連設備投資は旺盛に推移。他社には無い、付加価値の高い商材を投入し市場拡大する。



注力商材：空気圧機器、ろ過フィルター

自動車・車載部品

既存顧客に加え、新規HV関連設備への商材と自動化システムを積極提案し、当社業種別シェアを25%へ拡大。当社の主軸となる業種として育成する。



注力商材：ロボット、自動化システム

医療・食品

M&Aにより、理化学系商社を完全子会社化。当社業態と異なることから相互補完関係にあり、お互いの保有する優れた商材と販売ノウハウを共有し事業拡大を目指す。



注力販売先：医療/大学・研究機関

事業戦略③ 新市場開拓

<展示会 出展報告>

● 第4回 工場内の協働ロボット利活用展

会 場：東京ビッグサイト

開催日：2024年7月24日～26日

来場者数：2,253名

● UR協働ロボットフェアin仙台

会 場：サンフェスタ・仙台市

開催日：2024年8月22日～23日

来場者数：127名

● 第27回 機械要素技術展【大阪】

開催日：2024年10月2日～4日

会 場：インテックス大阪

来場者数：2,268名



まだ取引口座のない大手優良企業も多数来場していただきました。
現在具体的な案件として商談を進行中です。今後も展示会へ積極的に出展し、
売上の拡大とブランド強化に取り組めます。

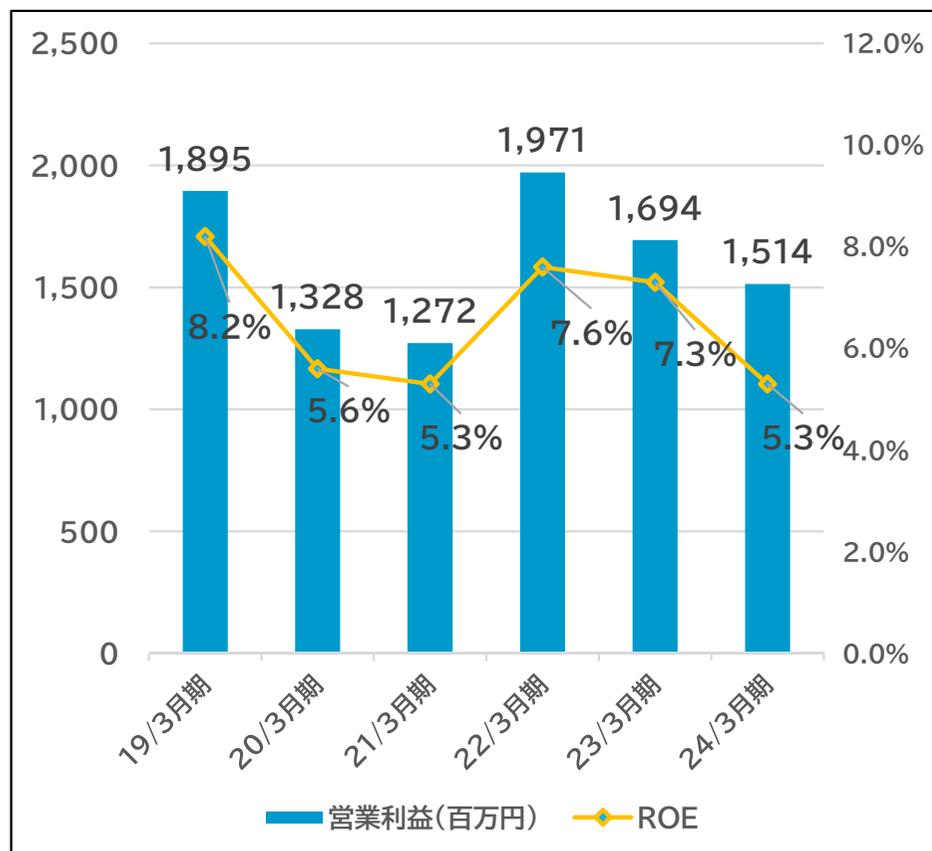
資本戦略 ～企業価値向上に向けた取組み～

1. 経営指標目標の達成 「資本コストや株価を意識した経営の実現」

目標: ROE 8.0%、PBR 1.0倍以上

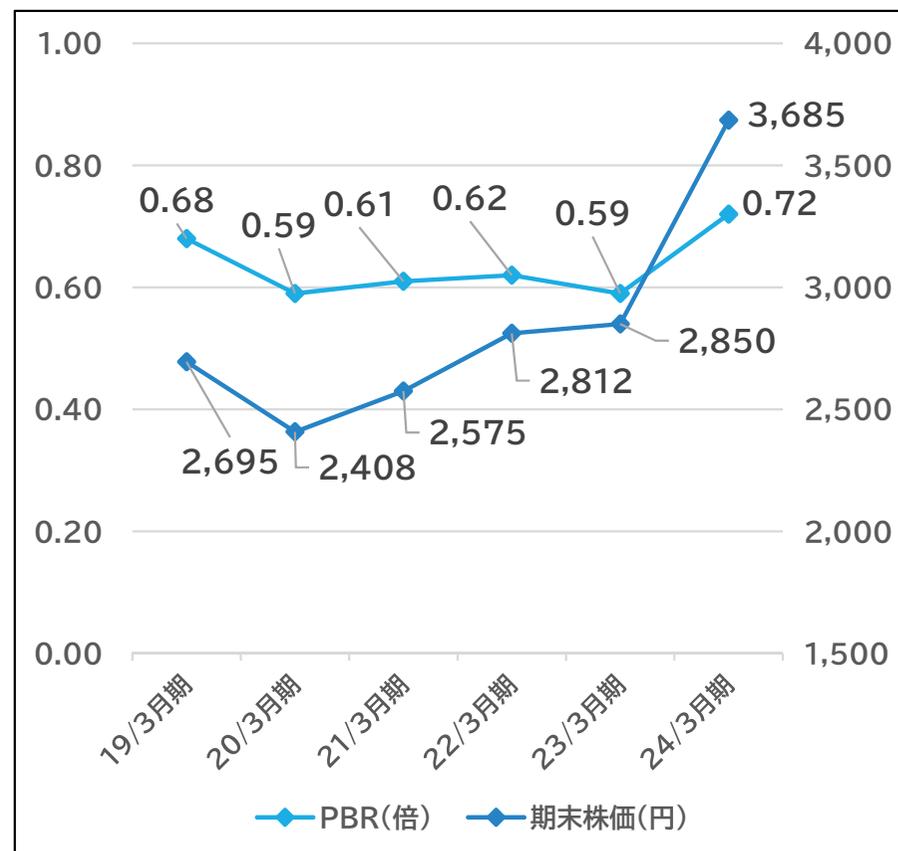
<ROE について>

ROEと営業利益の実績推移



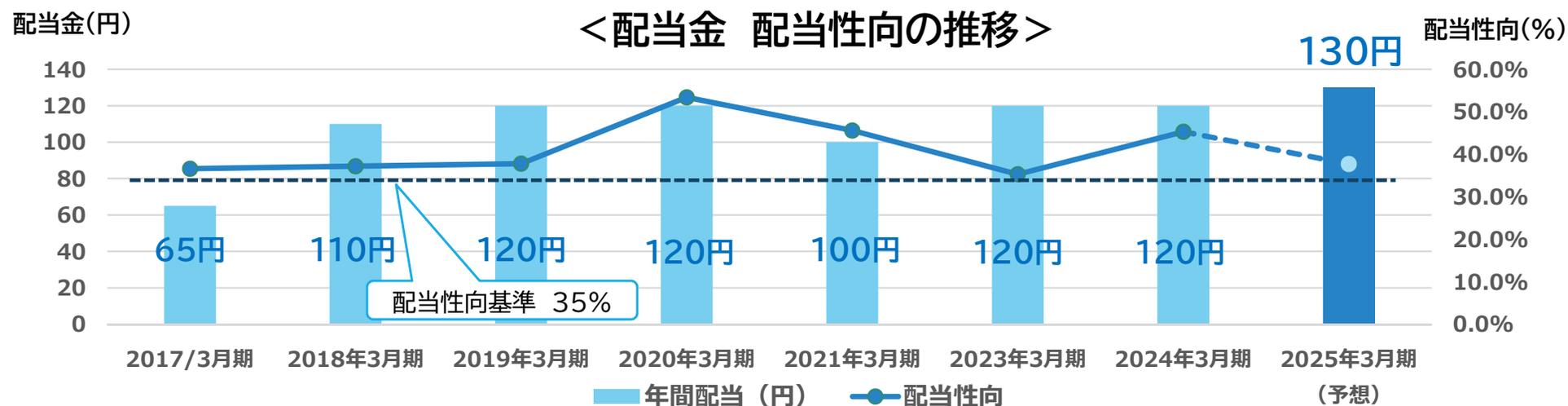
<PBR について>

PBRと当社株価の実績推移



2. 株主還元について

- ◆ 配当方針: 長期的、安定的な利益還元の実施を目標とする
- ◆ 連結配当性向を35%以上とし、一株当たりの配当金を下限40円とする
- ◆ 自己株式の取得等の間接的な株主還元についても機動的に対応



自己株式の取得状況

実施時期	取得株式数	取得単価	取得額	発行済み株式総数 に対する割合
2021年11月	70,000株	2,561円	179百万円	1.4%
2022年2月	50,000株	2,780円	139百万円	1.0%
2022年11月	145,000株	2,750円	398百万円	3.1%
2023年5月	33,800株	2,940円	99百万円	0.7%
2023年11月	80,000株	3,115円	249百万円	1.7%
2024年5月	56,000株	3,600円	201百万円	1.1%
合計	434,800株	-	1,267百万円	9.2%

3. 環境への配慮、人的資本経営強化

持続可能な社会の実現を目指して積極的なサステナビリティ経営を推進

当社はサステナビリティ委員会において、ESGの観点から重要課題を抽出し、課題解決に取り組んでおります。特に環境及び人的資本への取組みについては、当社の企業価値向上に資すると判断し、優先的に対応を進めております。

環境への配慮

■カーボンニュートラルへの取組み ～温室効果ガス排出量の算定～

事業活動における温室効果ガス(CO₂)排出量削減のため、指標とする温室効果ガス排出量のモニタリングを実施しております。また現在算定方法の見直しを行っており、今後は連結対象子会社も含め、より正確な過年度を含むScope1、2及び3の算定を実施し、現状を踏まえた温室効果ガス排出量削減のための目標を設定する方針です。

範囲	分類	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
国内事業所	Scope 1 (t-CO ₂)	295	303	309	300
	Scope 2 (t-CO ₂)	208	207	196	178

人的資本経営

■ワークライフバランスと女性活躍の推進

有給休暇の取得推進、残業時間削減、復職後の時短勤務による子育て支援など、働きやすい環境づくりと社内環境の整備に取り組めます。

・女性社員の平均勤続年数長期化

目標:2027年度に10.5年へ

■健康経営の推進

2023年度、健康保険組合より健康推進の取組みを評価され「銀の認証」を取得しました。引き続き従業員の健康診断受診100%を継続する等、健康経営を推進します。

■各種資格取得による営業提案力の強化

当社は、技術系専門商社として必要なスキルを維持するための各種資格取得を推進しております。取得後は社員に一定期間の資格手当を支給しております。

・各種資格取得者数:延べ 321名 ※2024年12月末現在

■社員昇格制度と社員教育の強化

本年度より、職能等級資格評価制度を導入いたしました。また、新型コロナウイルス感染症の影響で中断していた社内教育研修を再開し、社員の一層のスキルアップに取り組んでおります。

この資料には、2025年2月5日現在における弊社の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。世界経済・競業状況等に関わるリスクや不安定要因により実際の業績が記載の数値と大幅に異なる可能性があります。

従いまして、その内容につきましては、当社は一切責任を負うものではありませんのでご了承ください。また、本プレゼンテーションは、投資を勧める目的のものではございません。

[問い合わせ先]

株式会社 鳥羽洋行
管理本部総務グループIR担当

住 所:〒112-0005
東京都文京区水道2丁目8番6号

電話番号 : 03-3944-4031

F A X : 03-3944-4091

E メール : kanri-01@toba.co.jp